

『立山黒部』世界ブランド化推進会議」第3回ワーキンググループ 議事録

日 時：平成29年10月11日（水）

10:00～11:00

場 所：都道府県会館407会議室

1 開会

2 挨拶（蔵堀観光・交通・地域振興局長）

3 議事

【渡辺副座長】

みなさんおはようございます。大変お忙しい中お集まりいただきまして、どうもありがとうございます。今ほどご案内ありましたように、今日は山田座長が所用のため不在ということで、私、渡辺が務めさせていただきます。大変不慣れではございますが、何卒ご協力のほどよろしくお願いいたします。

今日は第3回ということで、ご案内ありましたように、「立山黒部」の世界ブランド化に向けた28あるプロジェクトのひとつであります黒部ルートに関するプロジェクトの検討を行うというのがメインの議題かと思えます。お手元の次第にしたがって進めてまいりたいと思えます。今日はだいたい1時間、11時を目途にしております。何卒よろしくお願いいたします。

（1）黒部ルート見学会の一般開放・旅行商品化プロジェクトについて

【渡辺副座長】

早速ですが、議事の（1）から入りたいと思えます。（1）、それから（2）をまとめてということになるかと思うんですが、事務局、それから関西電力のほうからご説明をいただいた後、みなさんのご意見をいただければと思えます。よろしくお願いいたします。

では、早速、（1）の「黒部ルート見学会の一般開放・旅行商品化プロジェクトについて」ということで、事務局から説明をお願いします。

（資料に基づき、事務局（富山県観光振興室）より説明）

【渡辺副座長】

ありがとうございました。今、事務局から、黒部ルートの歴史的な部分を含めて、これまでの背景、それから現在、黒部ルートの見学会がどのように行われているか、このワーキンググループまでどんな検討がされてきたのかということ、それからプロジェクトについてということだったんですが、立山黒部をブランド化するために、ここで4つの要素がプロジェクトで提案されていると理解いたしました。ありがとうございます。

(2) 黒部ルート of 安全対策について

【渡辺副座長】

続きまして、今のワーキンググループの過程の説明でもありましたとおり、今回、安全対策ということが一つテーマになっていようかと思えます。今日は関西電力さんから、お手元にあります「旅行商品化にかかる安全対策（案）について」という資料が準備されております。それから、お忙しい中スライドまでご準備いただいたということで、関西電力さんから資料に基づきまして説明をお願いいたします。

(資料に基づき、関西電力株より説明)

【渡辺副座長】

詳細にありがとうございます。資料に基づき、関西電力さんから安全対策案についてお話しいただきました。ありがとうございました。

(3) 意見交換

【渡辺副座長】

残った時間でお集まりいただいた皆様からご意見をいただこうと思えます。実は私、前回の会議には出ておりませんが、今日お集まりの方でも前回おられなかった方がおられるかと思えますので、議論のために確認しておきたい点が1つ2つあるんです。

今のご説明では、要は現行の関西電力さんがおやりになっている形は、先ほどありましたように無事故でやってこられたという現実があって、それを一般開放するとなると、13ページの説明はさらなる安全対策が必要になるというお考えですよ。

【関西電力株北陸支社 多田支社長】

そういう考えでございます。幸いにこの20年間、無事故でございました。ただ、それはここにも書いてありますが、その裏で落盤というものは生じております。あるいは、別のところで、脱線という起こしてはいけないようなこともあったのは事実でございます。これは、実際にはそのときお客様は乗っておられませんでしたので、大きな事故にはなりませんでしたが、また、緊急に電車が停止する、停止するというのは見学会を中止せざるをえなくなったといったことも自然条件の中で多々発生しております。こういったこともお客様にご理解いただいた上で、今までなんとかやっているという状況でございます。

【渡辺副座長】

一般開放となると必ずしもそうではないんじゃないかというお考えがベースとしてあると。それは、見学と観光という考え方でしょうか。

【関西電力株北陸支社 多田支社長】

はい。

【渡辺副座長】

見学だったら理解をいただける部分が、今度、パックツアーになると、先ほど説明もございましたが、観光として来るとこれは別の考え方をしなきゃいけないと。

【関西電力(株)北陸支社 多田支社長】

はい。

【渡辺副座長】

見学と観光の違いということもあるのかもしれませんが。

それからもう一つ、私がちょっとよく分からなかったのが、資料の13ページに「法令や社会的責任を踏まえ」というところがあるんですが、いわゆる関連する法律があるかと思うんですが、よく分かりません。石原課長でしょうか、もし、この件で何かコメントを、この法令というところですが、今後の議論にご指導いただける部分があればいかがでしょうか。

【国土交通省鉄道事業課 石原課長】

観光商品ということだと、まずは旅行業法になるかと思います。鉄道事業法の適用があるかないかということは、それはまさに今回の旅行商品化を実施するにあたって、どのような車両なり、本数なり、目的なのか、見学会としてなのかそれともいわゆる旅行商品としてなのかといったところを全部、色々勘案して決めていくことになりますので、当然に鉄道事業法の対象になるということでもございません。そこは今後、富山県さんと関電さんが、具体的に商品を詰めていく中で、こういう中身であれば鉄道事業法の適用は必要ないでしょうともなりましようし、場合によっては鉄道事業法の対象となることもありえます。

【渡辺副座長】

今後、こういった形で進めていくかということによるという考え方でよろしいですか。

【国土交通省鉄道事業課 石原課長】

はい。

【渡辺副座長】

県はその辺いかがですか。この法律のところです。

【富山県観光・交通・地域振興局 蔵堀局長】

先ほどの説明は、2,000人規模の旅行商品化ということで、安全対策のご説明があったと聞かせていただきました。私たちとすると、2,000名規模で公募見学会をやっていただいております中で、その区間で料金をいただくという訳でもなく、実態として黒部ルートの区間を通る部分についてはそう変わらないと思っております。そこで、公募見学会に比べて、旅行商品化したときに、同じ人数でこれだけの安全対策が必要になるところがいまひとつ、ちょっと理解できないかと思っております。13ページに「法令や社会的責任を踏まえ」と書いてござい

ますが、その法令とは具体的に、安全対策を検討された場合にどのような法令を検討されたのかということをもう少し教えていただきたいと思います。

我々としては、公募見学会であれ旅行商品化であれ、人命尊重というのは一番大事なことで、それは関西電力さんで今も責任をもってやっていただいておりますので、そこに何か不十分な点があるとは思っておりませんので、それとこれがどう違うのかももう少し説明をいただかないと、私たちもそうですけれども、県民の方々も理解ができないのではないかと今なっております。

【渡辺副座長】

これに関して、石原課長から状況によって色々ありうるんだというご示唆をいただいたところですが、今のご説明に関していかがですか。

【関西電力(株)北陸支社 多田支社長】

なかなかご理解いただけないということも分かった上で、我々として、まず、実施体制や具体的にどうやっていくのかなどを分かっておりませんが、少なくとも、この黒部ルートを、我々の設備としてあるいは工事用として、今、現状はこういったものとなっておりますの中で、我々が考える公募というのは、電気事業をご理解いただくということに限って、お客様にご理解していただいた上で来ていただきまして、設備的には必ずしも十分ではないところに関しましてはソフト的なところで対策をしながら現在までできております。これを観光客を広く受け入れる旅行商品として公にしていくとなった場合に、要は当然、何かあったときに、設備を所管する弊社が社会的に安全対策が十分ではなかったんじゃないかということに関しまして、社会的な責任というのもあるでしょうし、さらに来られるお客様も、黒部ルートに観光していこうといった気持ちで来られるお客様と、弊社の電力設備を理解しにいこうとご理解いただいて来られるお客様では、当然、この設備に対して求められるものも違ってくると思います。一般旅行者のお客様ですと、例えば、普通の鉄道の設備に乗りに行くんだという感覚で来られる方もたぶんいらっしゃると思います。そういった方に対しては、当然、従来の公募、予約のところは違って来るんだろうと考えております。

【渡辺副座長】

なるほど。そうしますと、今の中では、公募枠をちょっとだけ広げる案、短・中期となっておりますが、その辺に関してはどうお考えですか。

【関西電力(株)北陸支社 多田支社長】

まずは、2,000人を旅行商品化した場合にどのような安全対策が必要かということについて考えさせていただきました。それを広げたらどうなるんだということについては、検討しておりません。

【渡辺副座長】

少しクリアになってきたと思います。もし、お集まりの各メンバーの中から、ご意見あるいはご質問ありましたら、この機会にいただければと思います。

この先拡大するならそれなりの新たな検討が必要であるということですね。

【関西電力㈱北陸支社 多田支社長】

旅行商品化の話でしょうか。それとも公募枠の話がされているのでしょうか。

【渡辺副座長】

公募を広げるとしても、その段階で新たな安全対策を含めた検討が必要であるということですね。そこでもし、県側との調整、協議というのか分かりませんが、ご検討いただけるということでしょうか。

【関西電力㈱北陸支社 多田支社長】

はい。まずは、旅行商品化というご要望をいただきましたので、これをいったいどういうふうにやっていくのかというあたりを言及いただきまして、その中でさらに別のご要望ということで、それはそれとして全体の中でご議論させていただきたいと思います。

【渡辺副座長】

それが一番最後に書いてあるところになるのでしょうか。

【関西電力㈱北陸支社 多田支社長】

はい。

【渡辺副座長】

事務局のほうでさらに何かありますでしょうか。

【富山県観光振興室 中谷観光戦略課長】

1点だけ、法令というのは何の法律を念頭に置いて色々と書かれているのでしょうか。

【関西電力㈱ 岡本庶務部長】

適用はともかく、鉄道事業法を念頭に置いております。

【富山県観光振興室 中谷観光戦略課長】

適用の有無は。

【関西電力㈱ 岡本庶務部長】

それは実際の旅行商品の設計によって変わってくると思っているので。

【富山県観光振興室 中谷観光戦略課長】

今回は適用されることがあるとして検討されたということでしょうか。

【関西電力㈱ 岡本庶務部長】

適用があるとなればこれだけではありませんので、そういう訳でもないということになります。

【富山県観光振興室 中谷観光戦略課長】

資料で「法令も踏まえて責任が異なる」ということですが、責任の異なる根拠となる法令というのはどれでしょう。

【関西電力㈱ 岡本庶務部長】

ですので、それは鉄道事業法等、広くこれから考えていかなければならないと思っております。実際に旅行商品をどういうものにするかによって、色々と議論すべきことが出てまいりますので、まず、その辺りも出していただいたうえで、具体的なお話はさせていただきたいと考えております。

【渡辺副座長】

そういう意味では、協議案をご提示いただいた上でやっていくということで、ご協議いただけるということではないかと思えます。その他ご意見、アドバイス等ありましたら。

【富山県観光・交通・地域振興局 蔵堀局長】

今ほど旅行商品化した場合と公募見学会の違いということでご説明があったと思いますが、一方で、公募見学会の2,000人だけがここを通っている訳ではなくて、15,000人ぐらいの工事関係の皆さん、それから約3,000人とされている社客の皆さんも通っておられるという話の中で、他の工事関係者、社客分については特に変わりなく、公募見学会が旅行商品化されたらということによってのみ安全対策が必要になるという理解でよろしいでしょうか。

【関西電力㈱ 岡本庶務部長】

もう一つ付言させていただきますと、旅行商品ということでもありますので、今回のテーマにもございますように、立山黒部を世界ブランド化しようということもございます。そうしますと、旅行商品に対する旅行者の方のご要請、あるいは要求されるレベル、品質に対するレベルというものもやはり高くなってくると思っております。我々が今ご案内している公募見学会、それから今回、旅行商品としてなんらかの形で、旅行客の方が対価のようなものをお支払いになるわけがございますので、そうしたところにご納得いただける観点からも、旅行商品の安全対策というのは考えていく必要があると思っておりますので、富山県さんのほうからご提案をいただいた企画を拝見したうえで、どういう形でこの立山黒部のすばらしい商品になるかというあたりも含めて、ご相談させていただければと思っております。

【富山県観光・交通・地域振興局 蔵堀局長】

先ほど県から、堅坑エレベーターのパノラマ展望ツアーのほうは既に商品化されているという説明をしました。こちらのほうは関西電力さんにもご支援をいただいて旅行商品化と聞いておりますが、その部分は大丈夫だけど要するにそれ以降の部分はリスクがあるというファイナルアンサーですか。

【関西電力㈱北陸支社 多田支社長】

そういうことです。あの堅坑のところは、平成27年、2年前でございしますが、富山県さん、地元の方のご要望ということで、なんとか少しでも地元の方のご要望に沿いたいという思いで旅行商品化をさせていただいております。当然、これをやるに当たって、いろんな対策はあり、実施しております。そのうえでここはできるでしょうと。ただ、この高熱隧道の部分はやっぱりこれはちょっと今までのエレベーターだけの部分とは違います。

【富山県観光・交通・地域振興局 蔵堀局長】

先ほどの説明だと、高熱隧道部分はカルバートで補強しているという資料だったと思うんです。

【関西電力㈱北陸支社 多田支社長】

資料の8ページを見ていただきますと、黒く塗っているところは素掘の部分でございします。そういったところは、先ほど申しております年2回の浮石処理、あるいは点検をしながら、なんとか通っていただいておりますので、こういったところも対策が必要だろうと考えております。さらに、安全対策全体ということでは、15ページと16ページに書いておりますが、こういった高熱隧道のカルバート以外のところも必要だと考えております。

【富山県観光・交通・地域振興局 蔵堀局長】

我々とする、年2回の点検でこれまで安全だったということですよ。

【関西電力㈱北陸支社 多田支社長】

はい。これまでは落盤が、正直申しますとありましたが、かろうじて事故はなくここまでこられた。これは、公募、社客の方々のご理解もあったと考えております。マスクを付けていただいたり、我々の安全指導にしたがっていただいている。こういった部分をベースに、今まで無事故というのが実現できたと考えております。ただ、これが旅行商品化ということになりますと、これはまた違うことになるということです。

【富山県観光・交通・地域振興局 砂原次長】

旅行商品化になると安全性が変わるお話を聞いていると、安全対策と旅行商品化で来られるお客様が求めるおもてなしの話がごっちゃになっている気がします。

【関西電力㈱ 岡本庶務部長】

2つ分けて考える。こちらのベースには安全がございします。その上でお客様にどういう商品をご提供するかという観点も必要だと思っております。安全対策もひとつありますし、そのほかにも、ハード面・ソフト面でまだまだ検討していくことはございしますので、富山県さんとまたご相談させていただきたいと考えております。

【富山県観光・交通・地域振興局 砂原次長】

安全対策については、公募見学会であろうが商品化であろうが、お客さんは同じです。15,000人は通っているんですから当然そういう対策は必要ですが。

【渡辺副座長】

おもてなしといいますか、お客様に対するサービスですが、現状の見学会のサービスレベルと同じであれば、商品化は可能だということによろしいですか。

【関西電力株 岡本庶務部長】

それについても、改めていろいろなお話を県さんからご提案いただいた上で、お話をさせていただきたいと思います。各論としてこれはどうかというあたりについて、お話をさせていただきたいと思います。

【渡辺副座長】

時間もちょっと過ぎましたが、重要な問題でなかろうかと思います。その他のお集まりの各委員の方々から、ご質問、ご提案等ありましたらご発言いただければと思います。

【富山県観光振興室 中谷観光戦略課長】

自分ばかり発言して恐縮ですが、社客枠の運用の実態について、不明な部分が多いので、その部分について、実態の把握を行いたいと申しあげたんですが、この点につきまして関西電力さんからご説明いただけるようでしたらお願いしたいと思います。

【関西電力株 岡本庶務部長】

こちらにございますように、社客枠につきましては、16,000人の工事関係者、公募の2,000人を除いた二千数百名というところで当社からご案内しているお客様でございます。日程につきましては、工事のスケジュール等を勘案して決めておりますので、こういう形でというのはございません。都度に考えて作っているものでございます。

【富山県観光振興室 中谷観光戦略課長】

昨年度の実績については、また教えていただけるということによろしいでしょうか。

【関西電力株 岡本庶務部長】

それについては、ご相談させていただきたいと思っております。

【渡辺副座長】

わかりました。時間もだいぶ経ちましたけれども、いかがでしょうか。

難しい、いろんな専門用語が出てきて、これまでブランド化をしていくという大きな目標の中で、個人的に言いますと、今日は非常にエキサイティングな、私、実は専門が旅行ですから、個人的にはこんな商品ができたらいいと思っているんですが、実際、オペレートする側になりますと、それはそれは大変な問題や責任があると、重々よくわかりました。というわけで、まずひとつは、いろんな方の安全の重要性、それが社員の方であろうが、社客のお客様であろう

が、あるいは公募のお客さんであろうが、どれでも同じだということは共通認識できたと思います。そのほか、いろんな各論があるのも分かってきているわけなんですけど、それに関しては、関西電力さんのほうもこれからご協議いただけるという前向きなご発言をいただいたのではないかと、そのように私は思います。ありがたいことで、そういう意味でもブランド化に近づいたかと個人的には気がします。

時間が過ぎてしまって恐縮でございますが、今日の意見交換はここまでにしたいと思います。大変貴重な意見をいただきましてありがとうございました。では進行を事務局のほうにお返しいたします。

以上